

藻場造成構造物による瀬戸内海復権プロジェクト

プロジェクト概要



- 香川大学では、磯焼けした沿岸域の再生技術として、藻場造成構造物を開発し、庵治漁業協同組合との連携のもと、10年以上に渡る実証実験を実施し、長期安定的に藻場を再生できることを実証しました。
- また、学生や市民を対象とした環境学習を定期的に開催し、ブルーカーボンや海域環境問題の普及啓発にも努めています。



篠尾地区設置状況



鎌野地区設置状況



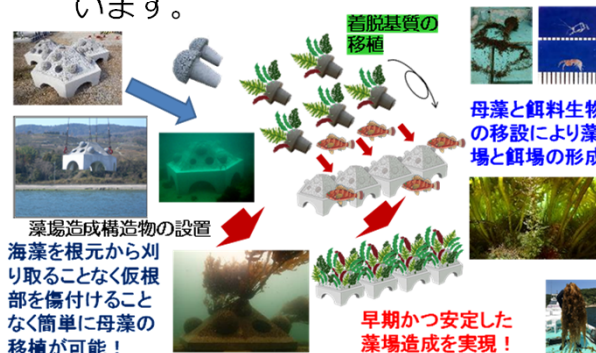
藻場造成構造物への海藻の繁茂状況



環境学習の実施状況

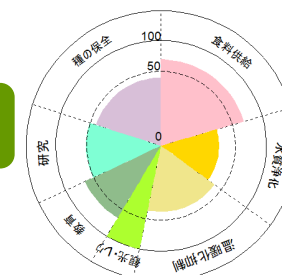
プロジェクトの特徴・PR

- 藻場造成構造物は、着脱式の多孔質基盤を有する構造で、浮泥が溜まりにくく、海藻の遊走子が着生しやすいよう設計された構造物です。
- 合計71基の藻場造成構造物を設置し、産・官・学・金連携のもと、ブルーカーボンの創出と漁業資源の保護に努めています。



環境価値のインパクト評価

藻場造成構造物によって得られたポジティブインパクトをIMCES※を用いて評価した結果、約1180万円/年と評価されました。



藻場造成構造物の環境価値のスコア (100点が最良の状態を示す)

環境価値	インパクト (年間あたり)	経済価値※※
食料供給	カサゴ等の漁獲が264kg増加	525万円/年
水質浄化	COD浄化量が33kg増加	130万円/年
観光・レク	3454人の釣人が来場	95万円/年
教育	22名が環境教育に参加	87万円/年
研究	研究論文が2報発行	173万円/年
種の保全	魚類が6種増加	168万円/年
計		1,178万円/年

※国土技術政策研究所が中心となり開発した沿岸域の環境価値を評価する手法。
 ※※経済価値は香川県の住民1500人を対象としたアンケート調査より求めた。